東成瀬 図書館だより

2022.3 月号　No.80　発行 東成瀬公民館図書室

〒019-0801
秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字上野 8-1
TEL　0182-38-8711　　FAX　0182-38-8712
E-mail　narusejidoukan@carol.ocn.ne.jp

☆令和 4 年 4 月の特集&新着案内

〈一般書〉

◎「春！新しいこと始めませんか」

生きるぼくら	原田　マハ
これならできる!DIY で作る収納家具	山田　芳照
そのままやるだけ!お金超入門	頼藤　太希
人生を変えた 10 行の手紙	村山　順子
あみぐるみ　基本のきほん	いちかわ　みゆき
まんがでわかる年収 200 万円からの貯金生活	横山　光昭
エッセ史上最強!おもてなしレシピ	別冊エッセ
お墓の建て方・祀り方・墓じまいまで	主婦の友社
元彼の遺言状	新川　帆立
2040 年の未来予測	成毛　眞

〈児童書〉

◎　「ともだちっていいな」

けんかはやめやさ～い	わたなべ　あや
あのこのたからもの	種村　有希子
ともだちのつくりかた	たかい　よしかず
しんゆうだけどだいきらい	石山　さやか
ランスロットとパブロくん	たむら　しげる
ぼくとがっこう	谷川　俊太郎
カラーモンスター　きもちはなにいろ?	アナ・レナス
カラーモンスター　がっこうへいく	アナ・レナス
くっくのおてつだい	中島　和子
はたらくくるまたちのかいたいこうじ	シェリー・ダスキー・リンカー

◊今月のオススメの一冊◊

『まるごとわかる!撮り方ブック』
iPhone&スマホ編
山崎　理佳　／　著



スマホ初心者もオススメ!
写真編集者が教える、スマホでも撮影できる“すてきな写真”撮影のコツがつかめる撮り方ガイドブック。

『 ピンポンパンポンプ― 』
中居正広、劇団ひとり、古市憲寿　／　作

カピバラののんちゃんとびりーくんは大の仲良し。けれど、びりーくんの誕生日の約束に、のんちゃんはいつまでたっても来ません…。小さなすれ違いから、ケンカしながらも友達の大切さを思い出していく、優しく愛おしい物語。



※　電話予約もできますので、お気軽にお尋ねください

☆図書室利用案内☆

4 月の休館日

4／3（日）　17 日（日）
29 日（祝）

開館時間	午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分
休館日	・第 1、3、5 日曜日　・祝祭日 ・年末年始
図書の貸出	10 冊まで
視聴覚資料	3 点まで（DVD・CD など）
貸出期間	3 週間



★休館日の本の返却はブックポストへお願いします★

お知らせ

新しい雑誌の紹介



『からだにいいこと』

キレイと健康に敏感な女性たちのための情報誌。日頃の「からだにいい生活」に役立つことが満載。

※偶数月の発行です。



『ESSE（エッセ）』

妻として、母として、そしてひとりの女性として、毎日の暮らしを丁寧に送りたい・・・

そんな女性に向けた生活情報誌。

※これまで貸出・返却のみの制限開館になっていましたが、3/22 より通常開館の予定です。ただ、今後も感染症の流行状況等により変更になる場合もあります。また、来館の際は図書館の利用の前後に手指消毒をし、感染症対策を講じてのご利用をお願いします。

—第 11 回—

わたしのとっておきの一冊

なるせ保育園 副園長 **髙橋美香さん**



からのオススメ

『そして、バトンは渡され

瀬尾　まいこ　／　作

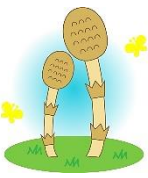
文藝春秋

この本との出会いは映画がきっかけでした。令和最大のベストセラー、本屋大賞受賞作が映画化され、永野芽郁×田中圭×石原さとみが出演となれば、観ない理由がみつからないと映画館に足を運びました。

主人公は、血の繋がらない親の間をリレーされ、4 回苗字が変わった女の子。一般試写会では鑑賞者の「92.8%が泣いた」というだけあって、私も卒業式のシーンから大号泣、クライマックスでは鼻水の処理と嗚咽をこらえるのに必死なほどでした。「この感動は一生忘れない」というキャッチコピー通り、感動の涙と共に優しい余韻に浸れる作品で、今でも心に残っています。

さて、本題に戻り原作の内容はというと、映画とは異なるクライマックスで二度感動できる構成になっています。“家族”を再認識し愛を感じて泣きたい方におすすめの一冊です。

ぜひ一度読んでみてください。



読みかたりグループ

『つくしんぼ』コーナー

おはなし会
4月9日（土）
午前 10：30～11：00
（予定）

会員のつぶやき

会員　谷藤 すみ子 さん



「北の動物たちシリーズ」を求め、当時 4 歳の孫にも読ませたいと思い、自分の手元に 2 冊置き、孫に 3 冊送りました。でも、私の意に反し、娘から送られてくる動画には、絵本を読む孫の姿はいつまでたってもありません…。

私は手元に置いた「おおはくちょうのそら」をマイブックにしたくて、時々出しては読んでいます。

春を迎え、生まれ故郷の北の国へ帰らなければならないハクチョウ一家の話です。病気で飛べない子ハクチョウの回復を願ってギリギリまで飛び立つことをこらえていたこの一家が子ハクチョウ一羽を残し旅立つ別れや、その家族に追いすがろうとする子ハクチョウの鳴き声。何回読んでもこの場面になると感情が高ぶってしまい、なかなか先に進めません。いつになったら気持ちを落ち着かせて読むことができるのか…。もう少しこの本と向きあっていきたいと思います。

